

日本脊髄外科学会教育セミナーの成り立ち

2002年6月12日(静岡)の世話人会で、北海道大学脳神経外科の飛驒一利より、今後、脊髄外科を担う医師を増やすためには、教育が必要であり、何らかの活動を行うことが提案された。このためワーキンググループとして運営委員が選出され、脊髄外科医を目指す医師の教育のため、日本脊髄外科学会のサテライトカンファランスが計画された。カンファランスは、より実践的なものとするため、症例に学ぶ脊椎脊髄外科のスタンダード、という副題をつけた。対象は、日本脳神経外科学会専門医を目指す医師、一般診療施設で脊椎脊髄疾患の取り扱いを考えている医師、脊椎脊髄外科医を目指す医師、若手脳神経外科・整形外科医、とした。したがって、このカンファランスは、学術集会から独立した講習として企画されたが、次第に学術集会の翌日に行われる事が多くなった。

2003年6月28日に第1回の脊髄外科サテライトカンファランスが東京慈恵医科大学の講堂で開催された。以後、2006年の第4回までは、サテライトカンファランスの名称で、世話人会の中で選出された運営委員が計画し、谷諭および東京慈恵会医科大学脳神経外科教室の全面的な協力のもと、その講堂で主に開催してきた。しかし、2005年12月から日本脊髄外科学会が理事会制度に移行し、各種委員会も設立されたため、2006年5月24日の理事会(金沢)において、第5回以降は、生涯教育委員会が担当することになった。これにより、生涯教育委員会委員長の高安正和が中心となり、名称も教育セミナーとなった。第5回(2007年)から第12回(2014年)までは高安と愛知医科大学脳神経外科教室が企画・運営を担当した。

2013年6月5日の理事会(名古屋)で、教育セミナーの運営は次年度の学術集会の会長が運営を担当することが決定された。2015年6月27日の第13回目の教育セミナー(札幌)より、翌年の会長である谷諭が担当となって開催された。以後、第16回(奈良、小柳泉が担当)まで、翌年の会長就任予定者が順次、生涯教育委員長となって運営を担当した。しかし、2018年6月13日の理事会で、生涯教育委員会は常設委員会であり、毎年委員長が替わることは避けるべきであるという意見が出され、2019年からは、生涯教育委員会が企画して、学術集会の会長が教育セミナーを実施することが決定された。これにより、教育セミナーは、名実ともに学術集会のサテライトとして行われることになった。